

## 動物由来感染症の危険性、理解していますか？

### 1：「動物由来感染症」とは

動物由来感染症とは、動物から人へ感染する病気の総称です。近年、コロナ禍でペットを飼う人が増加しており、こうしたペットからの動物由来感染症が大きな問題となっています。犬猫等の一般的なペットとして飼われる動物以外を指す“エキゾチックペット”へ高い関心を持つ人が多く見受けられる一方で、エキゾチックペットに由来する感染症に対する認知度の低さが課題として挙げられているのも現状です。

### 2：注意すべき主な動物由来感染症

病名	病原体	感染様式	主な症状
狂犬病	狂犬病ウイルス	犬に咬まれる	錯乱
オウム病	オウム病クラミジア	インコの糞を吸い込む	全身倦怠感、悪寒・発熱
猫ひっかき病	バルトネラ	猫に咬まれる、引っかかる	全身倦怠感、悪寒・発熱
パスツレラ症	パスツレラ	犬、猫やウサギに咬まれる	悪寒・発熱
サルモネラ症	サルモネラ	カメの糞に接触	下痢、嘔吐
トキソプラズマ症	トキソプラズマ	猫の糞便中の原虫を摂取	無症状
皮膚真菌症	犬小孢子菌	感染したウサギの抜け毛に接触	紅斑、痒み、脱毛
エキノコックス症	エキノコックス	感染した犬、猫、キツネに接触	無症状
レプトスピラ症	レプトスピラ	感染した犬、ハムスターの糞に接触	全身倦怠感、悪寒・発熱

### 3：動物由来感染症の予防

上記のような動物由来感染症は、日常生活において少し意識を変えるだけで予防することができます。気を付けるべき点について以下に示します。

- ・動物との過剰なふれあいは控えましょう。
- ・動物への口移しによる給餌はやめましょう。
- ・動物の食べた残りを食べることはやめましょう。
- ・動物と接した後は手洗いとうがいをしましょう。
- ・動物の排泄物には直後触れないようにしましょう。
- ・犬の登録と狂犬病予防注射は必ず受けましょう。

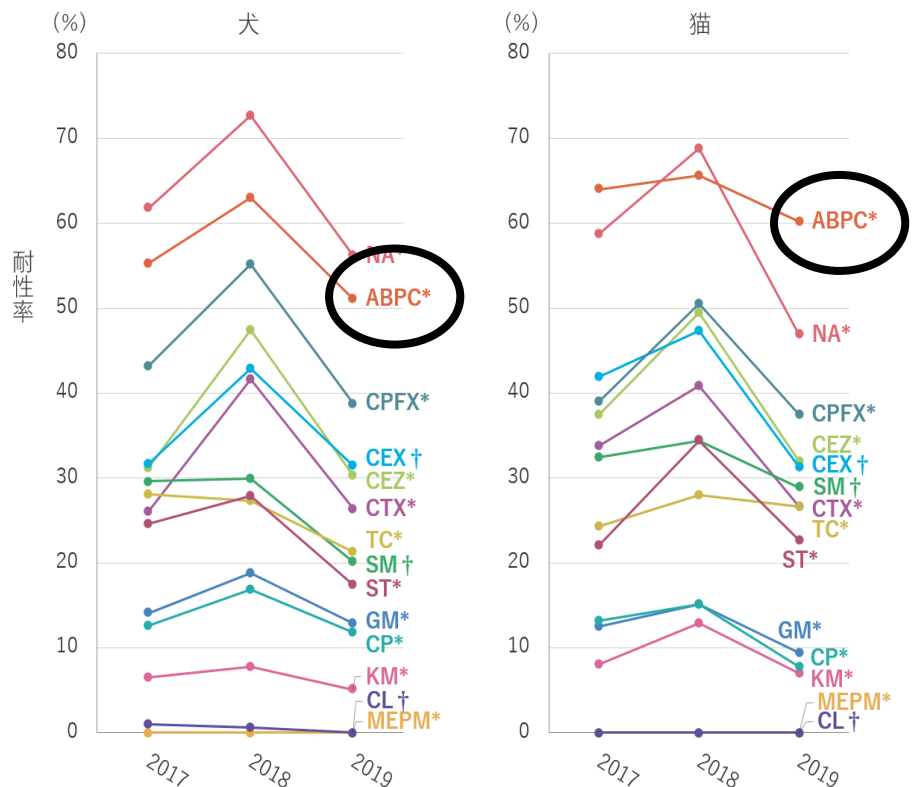


#### 4：実は増えている耐性菌

ここからは、ペットとして飼われる動物の大部分を占める犬及び猫に着目したいと思います。犬及び猫の飼育頭数は、コロナ流行前の2019年に比べて、2020年、2021年共に増加していることから、今後動物由来感染症に罹患する人の割合は増加すると予測されます。また、薬剤耐性菌の検出状況については国が主導して調査が行われており、ヒトに限らず畜産動物や犬や猫などのペットにおいても薬剤耐性菌が増加してきていることが明らかになっています。つまり、動物由来感染症に罹患し、その原因菌が薬剤耐性菌である場合には、治療薬選択の幅が狭まることで治療が難渋する恐れがあります。

犬や猫由来の大腸菌について14種類の抗菌薬の耐性率を調査したところ、一般的に大腸菌に効果があると知られるアンピシリン(ABPC)に対する耐性率が50~70%であったと報告あり(右図)、ヒトから検出された大腸菌よりも耐性化が進んでいることが明らかになっています。

(図) 犬・猫から検出された大腸菌の抗菌薬に対する耐性割合



#### 5：まとめ

自分の身を守るために、まずペットを飼う上で起こり得る感染症に関する知識を得ることが大切です。報道番組などにおいて薬剤耐性菌が注目される頻度は低いですが、本紙から薬剤耐性菌のこと、予防の重要性を知っていただきたいと思います。動物との不適切な接触がなされている場合は、動物感染症に罹患する可能性があります。その際、風邪などに類似した症状が出る場合が多く、病気が見過ごされる可能性があります。近年、コロナ禍では受診を控える傾向があることから、症状が出現した際には速やかに受診しましょう。



参考資料：AMR(薬剤耐性)とワンヘルスの理解を深める統計情報サイト

<https://amr-onehelth.ncgm.go.jp/statistics/2070/>

一般社団法人ペットフード協会-全国犬猫飼育実態調査

<https://petfood.or.jp/data>

厚生労働省-動物由来感染症ハンドブック 2021

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000906241.pdf>

文責：伊藤ほのか(実習生)、福浦啓史